

2015.12.09

新・アジア経営塾

「ABEイニシアティブの留学生と企業連携」

 神戸情報大学院大学
Kobe Institute of Computing

副学長 福岡 賢二

ご紹介： 神戸情報大学院大学 (KIC)

“Social Innovation by ICT and Yourself”

地球規模から身近なものまで、**社会的な課題を情報通信技術 (ICT) で解決することにこだわった**
IT分野の専門職大学院

例 (防災分野) : 災害時に知人同士の助け合いを支援するスマホアプリ「キズナ」

- ・高齢化
- ・都市化
- ・犯罪
- ・地域活性化
- ・防災
- ・etc..



“Social Innovation by ICT and Yourself”に繋がる原体験

パソコン通信を使った被災地内の避難所間情報伝達システム開発と運用('95 阪神淡路大震災)

神戸新聞 平成7年3月2日(木曜日)



ボランティア活動の効率化が期待されるパソコンネットワーク神戸市中央区

対策本部と連携

活躍中パソコンネットワーク

救済活動を効率化

神戸でボランティアネットワークに迅速対応

阪神淡路大震災の被災地では、ボランティア活動の効率化が期待されるパソコンネットワークが、神戸市中央区で活用されている。このネットワークは、被災地内の避難所間を結ぶための重要な役割を果たしている。また、このネットワークは、被災地内のボランティア活動を効率化するための重要な役割を果たしている。

神戸市中央区 避難所マップせひ役立てて

神戸市中央区は、阪神淡路大震災の被災地として、避難所マップの活用が重要な役割を果たしている。このマップは、被災地内の避難所間の情報を提供するための重要な役割を果たしている。

神戸市 救済本部 あすから無料配布

神戸市救済本部は、被災地内の救済活動を効率化するための重要な役割を果たしている。この本部は、被災地内の救済活動を効率化するための重要な役割を果たしている。



神戸電子専門学校内避難所



インターボランティアネットワーク本部



ボランティア 福田賢二さん

震災と

神戸からの提言

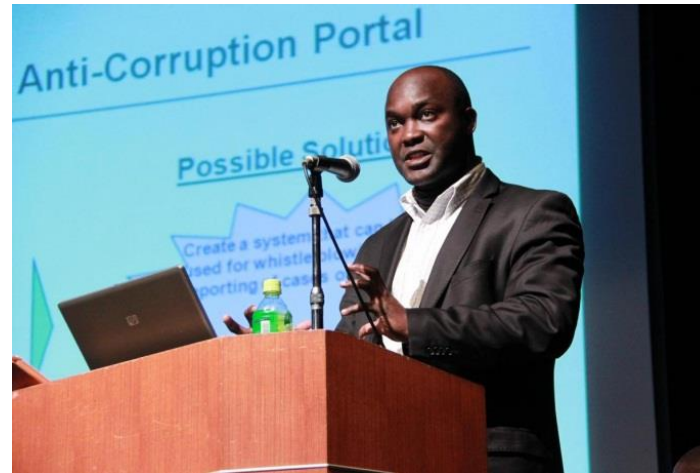
5.17 05:46 KOBÉ

インターネット

神戸大学教授 田中克己・編著

アフリカと繋がる原体験

2012年2月、アフリカ地域別研修「ICT活用による開発課題解決研修を実施（JICA委託）
（通称：**Tanky for Africa, TFA**）」

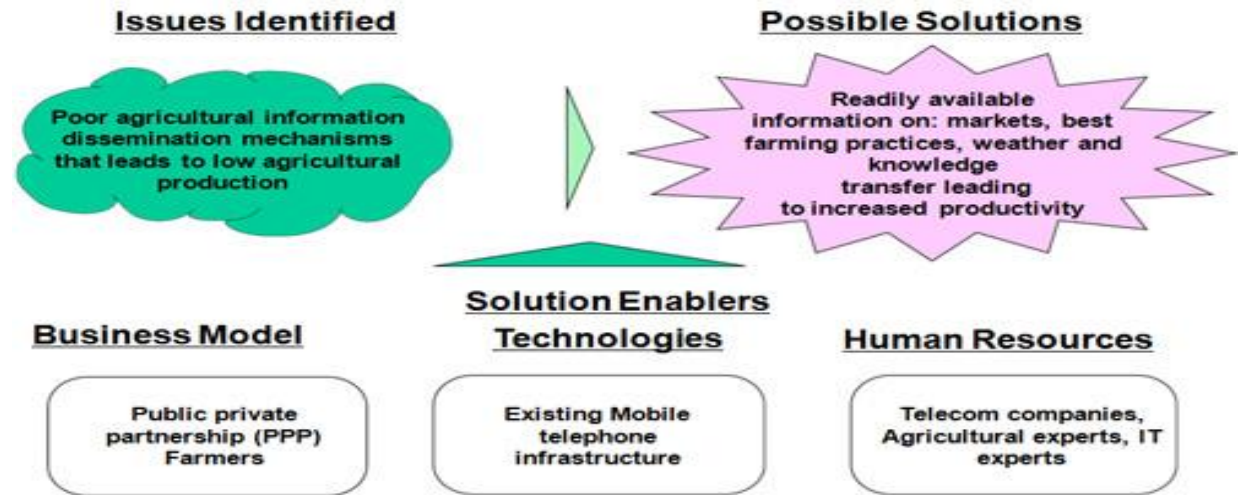


- ・アフリカ8か国から29名の政府高官（一部産業界）等が参加
- ・「医療、農業、産業振興、行政サービスの効率化、教育」の5課題分野で解決策を共に検討と検証
- ・このときアフリカ人の視点でのアフリカの課題認識と解決のアプローチについて逆に学んだ
- ・欧米では盛んな「ICT4D（ICTを活用した途上国開発）だが、当時日本では下火傾向であり今研修の成果と将来性に対して、参加者のみならず広く国内外からの期待を実感

この時知ったアフリカ ICTセクターのポテンシャルの高さ



図3-1 農業グループの探究仮説



- ・ケニアのM-PESA等、およそ先進国では思いつかないICTイノベーション事例が生まれている(写真左)
東日本大震災でUshahidiが活用される等、アフリカから日本へのリバーズ・イノベーションも
- ・アフリカで近年携帯電話の普及が急激に進み、ICT4Dに欠かせないツールに
前述TFA研修でも、すべての課題分野で携帯電話を用いた課題解決策の提案が目立つ(写真右)

ルワンダと繋がる原体験



- ・2012年11月、ルワンダの要請でキガリ市でTFAフォローアップを公的機関や企業に実施(写真左)
 - ・2013年6月、TICAD V (第五回アフリカ開発会議、於:横浜)で公式サイドイベント「ルワンダと日本の間で起こっているICTイノベーション」シンポジウムをJICA、JETROと共催(写真右)
- ルワンダからICT商工会議所、トゥンバ高等技術専門学校技術プロジェクト担当者等、またルワンダとのオフショア開発を本邦初で行ったICT企業経営者等を招聘し、本学とで議論

この時知ったルワンダ ICTセクターにおける若者のポテンシャルの高さ



- ・ルワンダではICTと若者を結び付けて経済成長と雇用機会創出のエンジンにしようと目論む(写真左)
- ・大学在学中にIT企業HeHe Ltd.を起業したCEO(女性)とCTO(男性)がTFA研修に参加(写真中)
以来、同社では本学教育プログラム(Tankyu Practice)を社員や地元学生向けに実施
- ・同社は今、アフリカにおける優れたスタートアップ企業として有望視されるまで成長(写真右)
2014年1月、CEOクラリス・イリバギザはイタリアのシンクタンクによる「世界で最も優れた思想家100人」で32位にリストされる。同CTOは、現在ABEイニシアティブを通じて本学ICTイノベーターコースに在籍中

2012年10月、日本初、アジアでもユニークなICT4D(ICTを活用した途上国の課題解決)修士課程「ICTイノベータコース」を新設

- JICA: ABEイニシアティブ(55大学中2番目)、PEACEプロジェクト(35大学中1番目)、長期研修、文科省: 国費留学生優先配置(私学では立命館大学と本学のみ)等に採択され
- 3年間に本学で学んだ人は100人を超え、30か国に及ぶ(短期研修者含む)



中東:

アフガニスタン

アジア:

バングラデシュ、インドネシア、マレーシア、ベトナム、
モンゴル、中国、韓国、台湾

島嶼国:

グレナダ、キリバス、トンガ

南米:

ブラジル、バルバドス

アフリカ:

エチオピア、タンザニア、ルワンダ、コートジボワール、
ケニア、ウガンダ、エジプト、モロッコ、モザンビーク、
ナイジェリア、南アフリカ、マラウイ、チュニジア、
ボツワナ、エチオピア、スウジランド

ルワンダ人学生が取り組むルワンダのICT課題解決の事例(一部)

「奥地での統合型洪水警報システム」

携帯電話とArduinoを使ったワイヤレスセンサーネットワークによる奥地での統合型洪水警報システム

「大規模茶畑の遠隔監視システム」

茶農家が扱っている大規模な茶畑の状態監視は人力で困難で、広い領域に分散している土や木の状況を常時監視するため無線センサーネットワークが適している。その監視システムを開発・試作し、日本で基本テストを経てルワンダでTCTやJICAの支援で実施する。

「奥地の村落のための遠隔医療システム」

ルワンダ奥地の村の住民が診断や治療を受けるために遠方の診療所へ行かないといけませんが、時間や費用が問題である。そのため、せめて初期診断の一部でも現地のヘルスワーカーが行えるよう、現地の事情を考慮した適切なICTソリューションで村と病院を結び、症状の情報や診断・初期治療の指示等の伝達を可能としたネットワーク医療システムを開発する。

「生産性向上のための農業情報ネットワーク」

農家に適切な情報を適宜提供するシステムを構築し、農業省からの発信、農家からの問い合わせ、農家同士の情報交換等をSMSを使って可能とし、広く普及させるプロジェクトを提案する。

「ルワンダのアニメ産業の育成と活性化のためのオープンソースプラットフォーム」

ルワンダの文化を基に、独自のアニメ産業を育てるため、アーティストが交流・共同作業できるオープンソースのプラットフォームを開発し、提供する。

2014年6月、ICT人材育成と産業振興に関する連携協定を本学とルワンダICT商工会議所とで締結



- ・ルワンダにおけるソフトウェア開発、ゲームソフト開発、アニメやデジタルコンテンツの制作等、ICT関連人材の育成と産業振興に関する連携協定の覚書を締結
- ・2014年10月、本協定に基づき、神戸とルワンダ（キガリ）とで相互利益を図りながら経済連携を進める「**Kイニシアティブ**」構想を発表（JICA関西で実施されたルワンダセミナーにて）

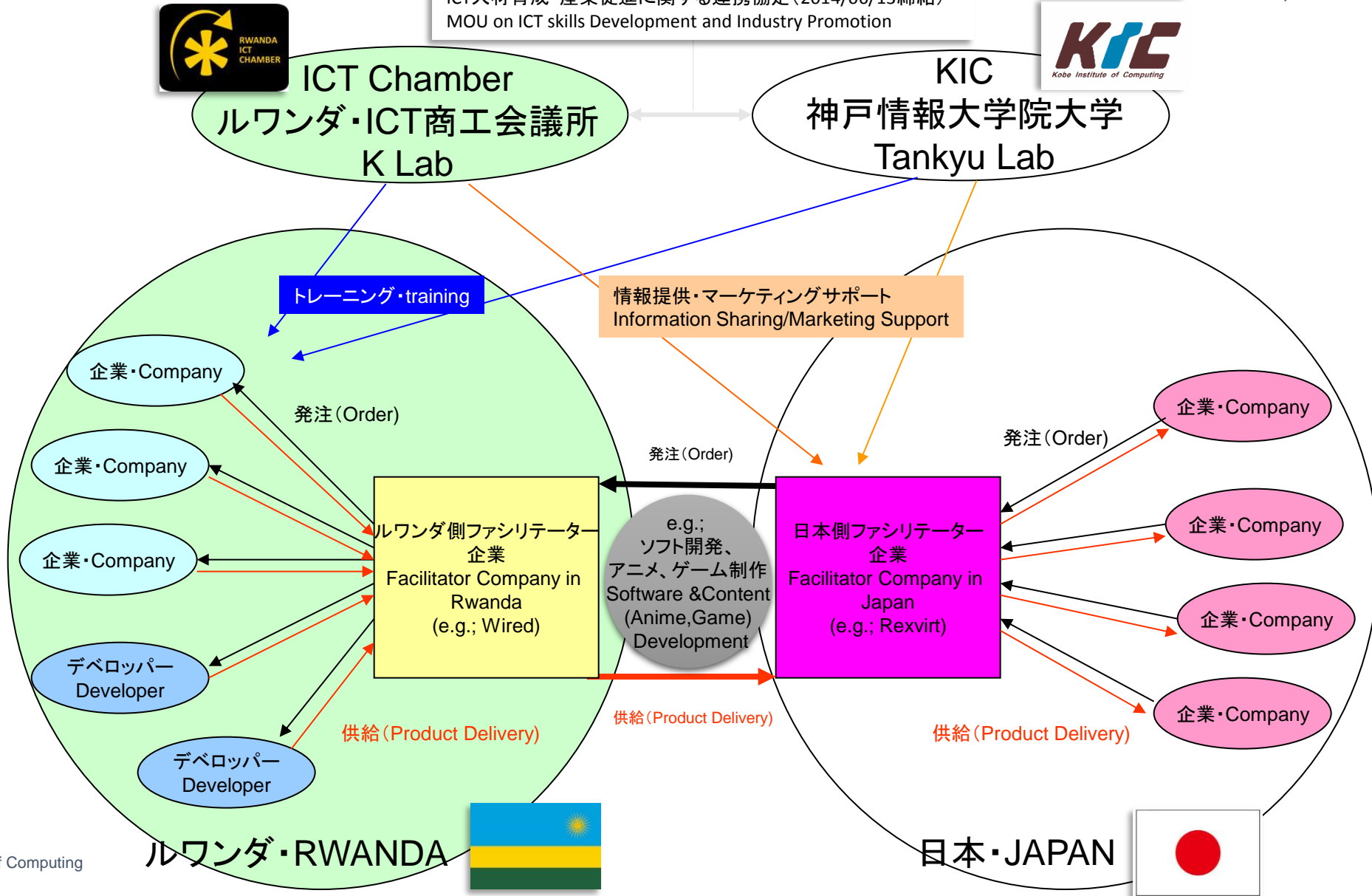
K-Initiative Schematic (Kイニシアティブ・構造図)

キガリと神戸で相互利益を図りながら2020までにルワンダに1000人の知識集約産業の雇用者を創出
 Association bet. Kigali and Kobe to generate mutual benefit &1K(1000) Knowledge employee by 2020

Proposers (発起人)

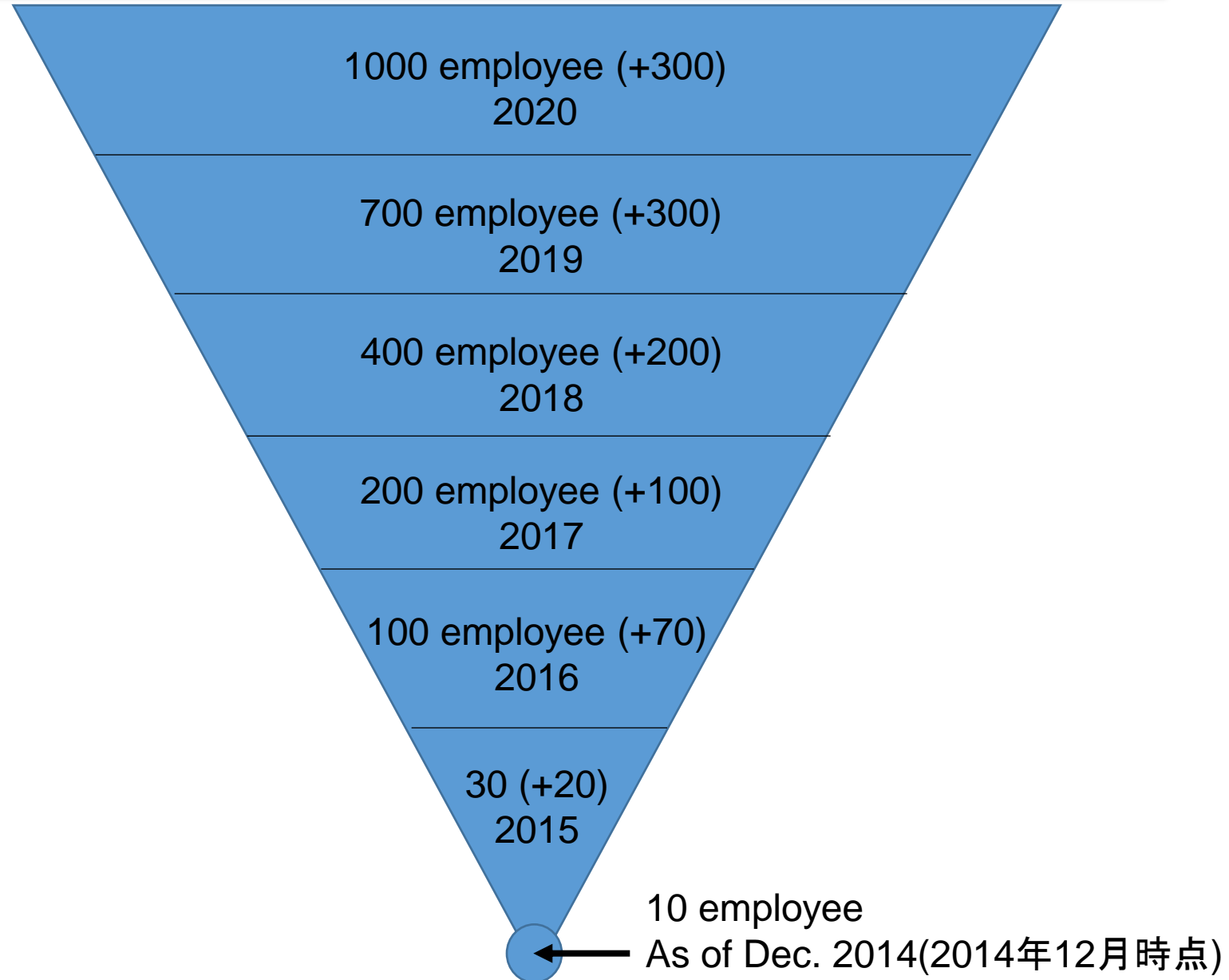
- Kenji Fukuoka: KIC *kenjif@kic.ac.jp
- Alex Ntale: Rwanda PSF ICT Chamber
- Hidekazu Tanaka :Rexvirt Communications Inc.
- Doga Makiura :Needs-One Co.,Ltd.
- Atsushi Yamanaka: Rwanda Development Board

ICT人材育成・産業促進に関する連携協定(2014/06/13締結)
 MOU on ICT skills Development and Industry Promotion



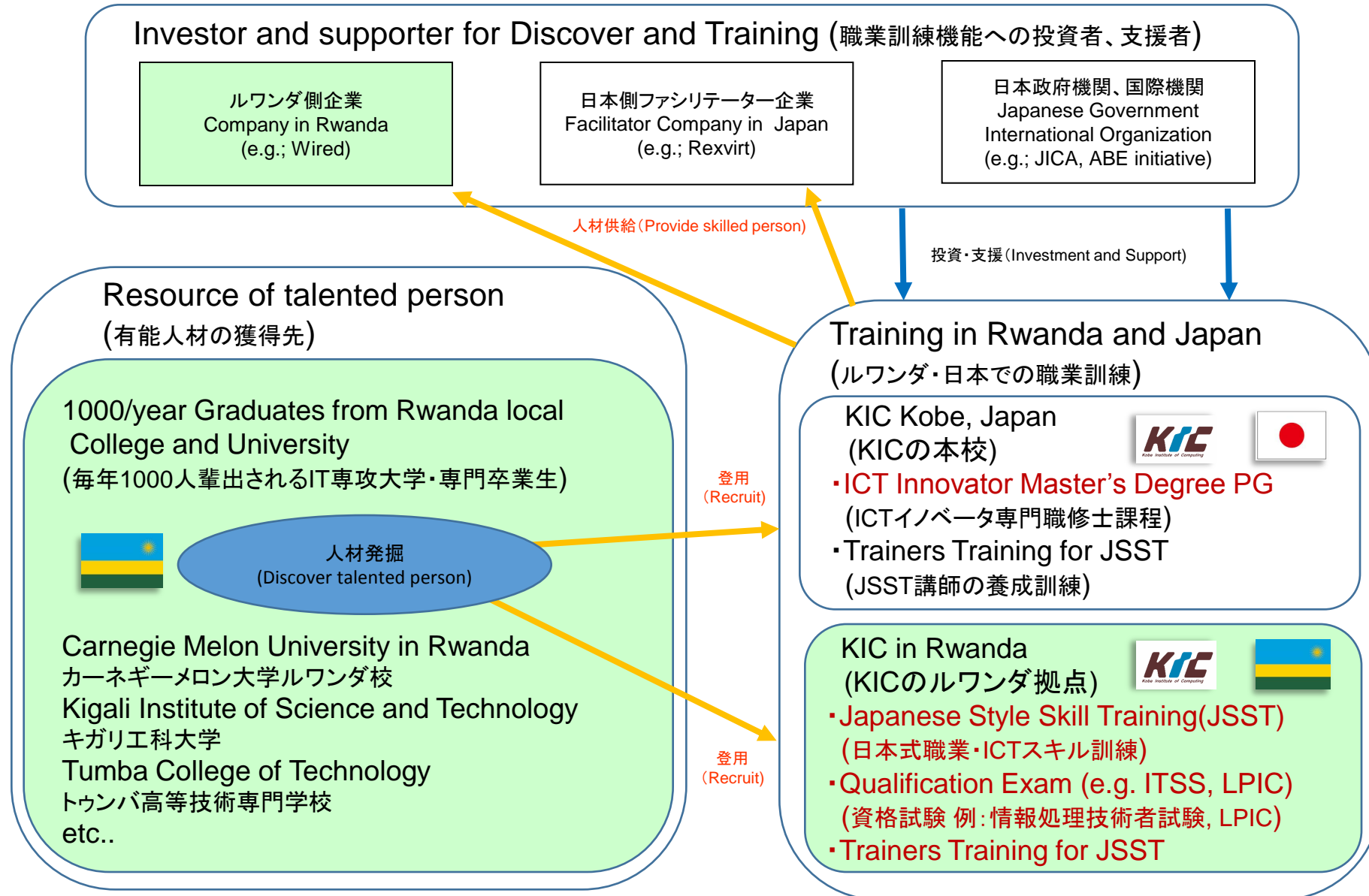
Miles stone (達成目標)

KICが主導的に運用する人材発掘・開発機能によって日本の仕事に対応できる人材を年度ごとに累積し2020年には1000人確保を目指す。
Goal is to achieve 1000 employee in Kigali by accumulate year by year Talented person discovering and development function led by KIC



Mechanism of discover and development talented human resource

Core of K-Initiative (人材発掘・開発メカニズム / Kイニシアティブのコア機能)



Proposers (発起人)



Kenji Fukuoka:福岡 賢二 Contact: kenjif@kic.ac.jp

Vice President of Kobe Institute of Computing / Graduate School of Information Technology
神戸情報大学院大学 副学長



Patric Kabagema:パトリック・カバゲマ

Chairman of Rwanda Private Sector Federation ICT Chamber
ルワンダICT商工会議所 会頭



Hidekazu Tanaka:田中 秀和

CEO of Rexvirt Communications Inc.
レックスバート・コミュニケーションズ(株) 代表取締役



Alex Ntale:アレックス・ターレ

Executive Director of Rwanda Private Sector Federation ICT Chamber
ルワンダICT商工会議所 エグゼクティブ・ディレクター



Doga Makiura :牧浦 土賀

Non executive director of Needs-One Co.,Ltd.
ニーズワン(株) 社外取締役



Representative of E-Education Rwanda
Eエデュケーション・ルワンダ 代表



Atsushi Yamanaka:山中 敦史

Senior advisor of Rwanda Ministry of Youth and ICT
ルワンダ青年ICT省 シニアアドバイザー



Executive advisor of Rwanda Private Sector Federation ICT Chamber
ルワンダICT商工会議所 エグゼクティブアドバイザー

Visiting lecturer of Kobe Institute of Computing / Graduate School of Information Technology
神戸情報大学院大学 招聘講師

Thank you for listening !

